

(別記)

2019年度江南市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

江南市では、畑作での露地野菜を主体として、一部の地域で水稻が耕作されている。しかし、農業経営者の高齢化や後継者不足など農業を取り巻く環境が著しく変化しており、田畑の耕作放棄地化が年々進行している。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

水田農業は、自家用消費米の作付けが中心で、販売用米は少量の出荷にとどまり今後も減少傾向に推移すると予想される。今後は担い手の掘り起こしを行い、農地の利用集積等の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれるため、飼料用米を転作作物として位置付けているものの、2019年度は主食用米への回帰があったため、産地交付金による支援を見送った。

このような状況ではあるが、生産性向上・品質向上・収量増加に関する取組に対して、産地交付金を活用するとともに、今後は担い手の掘り起こしを行い、2020年度には0.2haの生産を目指す。

イ 加工用米

当該地域の加工用米は、地元酒蔵への販売を中心に生産を行っており、近年、加工用米の需要が高まってきている。

生産性向上・品質向上・収量増加に関する取組に対して、産地交付金を活用し、2020年度には1.4haの生産を目指す。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	65	65	65
飼料用米	0.1	0	0.2
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米	1.3	1.1	1.4
備蓄米			
麦			
大豆			
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物	0.1	0.1	0.1
野菜 景観形成作物 ・ ・	0.1	0.1	0.1

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	加工用米	加工用米の生産性向上等に向けた取組	作付面積	(2018年度) 1.3ha	(2020年度) 1.4ha
2	加工用米	加工用米のコスト低減等に向けた取組	取組面積	(2018年度) 0ha	(2020年度) 1.4ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり